

## インターバンクの声（2017年12月18日）

アジア株安に続き欧州株も低調となり、米長期金利も低下傾向だったことから、週末のドル円はニューヨーク市場の朝方までは円が強含みのままで推移した。さらにニューヨーク連銀が発表した12月のニューヨーク州製造業景況指数が先月の大幅低下よりも軟化、このまま円高・ドル安が進んだままで週を終えそうでもあった。しかし、その後、共和党の一部議員が反対を表明しているにもかかわらず米税制改革法案が年内に成立するのではとの期待感が広がり、米株価が堅調になったことに加え、米長期金利も上昇し始めたことからドル買い・円売りの流れが変わった。112円台の前半で上値の重かったドル円は次第にドル買いが活発化、午前中の段階で112円70銭前後の水準まで戻した。ただ、途中で米長期金利の上昇が止まってしまったことや、米株価も終盤に上げ幅を縮小させたことで若干円が買い戻されて週の取引を終えている。税制改革法案成立への期待感には根拠が薄い部分もあり、期待が失望・落胆に変われば直ぐにドル売りに戻ることもあるので要注意だ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。